



小林学長(左)と青山教育長



本学と長久手町が「学校教育体験」協定書調印

6月30日、学長室において長久手町教育委員会青山安宏教育長と小林素文学長との間で、「学校教育体験」実施に関する協定書の調印が行われました。「学校教育体験」は、平成19年度に開設された文学部教育学科の1年次の必修科目で、長久手町立小学校で1週間の体験学習を行うものです。学生たちはそれぞれ学級に所属して子どもたちと行動を共にしたり、授業参観や放課後の研修に参加したりする中で、子どもたちや教師の職務についての理解を深めることを目的としています。大学生活の早く

から小学校での体験を行うことで、教育の現状を知り、教職志望をより明確にして、その後の学びを充実させてほしいと願って計画されているものです。昨年度は、覚え書という形で長久手町立小学校5校の協力をお願いしましたが、今年度は正式な協定書を取り交わし、新設校を含めた6小学校で体験学習が行われました。9月の1週間で学生たちは緊張しながらも、明るく意欲的に取り組む「本当の「先生」と呼ばれる夢の実現に向けての歩みを始めています。



コンピュータ実習



クラブ活動実技の体験

例年同様、中3の生徒全員が登校し、教育実習期間中の卒業生とともに会場係や案内係として、しっかりと役割を果たしてくれました。

中学校オープンスクールに約3000人が来校



今年も5月最後の土曜日である31日に一学期最大の行事である中学校のオープンスクールを開催しました。中高新キャンパスの見学や、進行中の中高完全一貫体制に対して大きな関心が寄せられており、昨年を大幅に上回る3000人近くの親子の方々に来校されました。全体会では、今回初登場のイメージキャラクター「さくらちゃん」が中学校生活を案内するビデオ「実りある6年」愛

知淑徳」を上映、学長あいさつ、3分間スピーチ、沖繩研修レポートと盛りだくさんのプログラムで参加者の関心を集めました。その後、校内見学に移り、校舎全体が多くの小学生と保護者で賑わいました。昨年同様、中1・中2の教室および特別教室では各教科毎にミニ体験授業(百人一首、民族衣装体験、数学バスル、理科実験、英会話、織物、コンピュータ)を実施しました。また、昨年から試みとして、各種のクラブ活動の参観とあわせて、一部で実際に実技を体験できるコーナーを設けましたが、今年も多く的小学生が楽しそうに参加する姿が見られました。



バトン部が国際ソロプチミストからS会員として認証



バトントワーリング部が「国際ソロプチミスト名古屋」から、S(サービスクラブ)会員として認証されました。国際ソロプチミストはイギリスに本部を持ち、ボランティア団体を支援する女性の奉仕団体です。

バトン部は45年の歴史を持ち、これまで全国大会で数々の上位入賞を果たしてきました。練習のかたわら、さまざまな奉仕活動にも熱心で、2005年開催の「愛地球博」のイベントや2007年開催のウイングアリーナ刈谷の柿落とし公演などで演技を披露。交通費以外の謝礼は受け取らないというボランティア精神で、自治体等の要請に応えてきたことが、評価を受けたようす。6月14日、国際ソロプチミストの会員も参加されて、本校ゼンテナリーホールで認証式典を開催。バトン部に所属する高校生36人、中学生75人全員の名前が読み上げられ、全員でSクラブ誓約を読み上げました。



島田修三教授が前川佐美雄賞を受賞



本学副学長で文化創造学部の島田修三教授が、昨年12月に刊行の歌集『東洋の秋』で第6回前川佐美雄賞を受賞されました。同賞は現代短歌の先駆者として高い文学的業績を残した前川佐美雄を記念して平成14年から始まった短歌文学賞です。当該年度に刊行された歌集『東洋の秋』の中から年齢キャリアを問わず、最もスリリング

で優れたものに授与するという趣旨の賞です。『東洋の秋』は先生の第5歌集で、最近5年間の作品の中から五七七首が編集収録されています。すでに歴史的過去になるうとして、昭和という時代への哀惜と鎮魂をメインテーマとして、身辺日常を過ぎ去る時間へのさまざまな思いを形象した作品が並びます。経木もて包みてくれし「口ツケのぬくときを上げ昭和少年 冬の陽のななめに入りくる窓をあけ俺はさやけき風を聴く人 琥珀濃きモルト一瓶あがなひて机上にぞ置く秋深きかもなお、授賞式は7月14日、東京のお茶の水ガーデンパレスで行われました。



中国江蘇省から 修学旅行団が来校



校舎内を中国の生徒に案内



7月13日、江蘇省の小中の生徒34人と付き添い教員8人が来校しました。3年連続して行われている行事ですが、今年度は日中平和条約締結30周年で

胡錦濤国家主席が来日し、福田前総理大臣と日中の文化交流の約束をしたこともあり、特別な意味のある年となりました。本校からは中高生生徒会執行部、中高ギター・マンドリン部、有志数名の約40人の生徒が交流会に参加しました。センテナリーホールでの歓迎式典、生徒たちの校舎内案内の後、カフェテリアで親しく交流。ギター！マンドリン部の演奏後、中国からは縦笛の演奏と合唱が披露されました。1時間半ほどの交流会でしたが、生徒たちは最後には手を取り合って別れを惜しんでいました。

高校ソフトボール部OGが 北京オリンピックで 金メダルを獲得



愛知淑徳高校のソフトボール部で活躍した伊藤幸子さん（平成6年卒業）が、今年夏、開催の北京オリンピックで優勝した女子ソフトボールの選

手として出場しました。伊藤さんは本校卒業後、中京大学からトヨタ自動車へ進み、内野手としてずっとソフトボールを続けてきました。高校時代から前向きな性格で、チームを和ませていた伊藤さん。五輪チームでは副主将を任せられ、最年長ということもありチームのまとめ役でした。試合では主にバッターとして活躍。6試合に出場し、準決勝のアメリカ戦ではタイムリーヒットを放ちました。11月には、高校同窓会で行います。なお、淑徳高校出身でオリンピックに出場した選手は、伊藤さんで延べ9人目となります。

姉妹校で授業参加など オーストラリア研修旅行



8月21〜28日、20人の生徒がオーストラリアへ研修旅行に出かけました。本校の姉妹校であるメルボルンのセントキャサリンズ校の授業参加、交流会

同校の生徒宅での3泊のホームステイ、それにシドニーの観光などを体験しました。生徒たちは事前に6回の学習会で、オーストラリアの地理や歴史、教育、また、英語での日本の紹介の勉強などを重ねてきただけに、現地の生徒たちとの交流もスムーズにいきました。ホームステイでは親切に面倒を見てもらい、とても印象的だったようです。



セントキャサリンズ校の生徒と記念撮影



観光で訪れたブルーマウンテン国立公園で



長久手キャンパス8号棟に ギャラリーがオープン



現代社会学部都市環境デザインコースの拠点、長久手キャンパス8号棟5階の一角に、ギャラリーがオープンしました。毎年恒例の「ギャラリー！間巡回展」、卒業研究展をイベントの核として、建築デザイン・美術などのプロが手掛ける作品と学生が一年中フロアを共にする新たな試みです。6月17日〜7月10日開催の「東海の家建築家による近年の

SD 2030の選入選作品展」は本ギャラリーの柿落としとなりました。「SD...」は、建築家であれば誰もが登竜門とする「建築・環境・インテリアのドロッキングと模型」のコンペ、展覧会とその誌上発表が東京代官山で毎年開催されています。実際に建物を建てるには厳しい諸処の条件がありますが、建築家のオリジナリティやコンセプトが表現される出展思考の過程が示されます。本ギャラリーには、鶴飼昭年氏の「UHAUS」(05年入選)、吉村真基氏、吉村昭範氏の「SHOPPY」(04年鹿島賞)、小杉嘉文氏らの「無線庵」(04年新人賞)、鈴木えいじ氏らの「半建築」(01年SD賞)、山田幸司氏の「フォアタワー」(98年新人賞)など7作品を展示。素材や縮尺も様々にみせ方の工



講演会

夫された建築模型やパネルが会場に並び、来訪者を惹き付けました。また、7月3日は展覧会に併催して講演会を実施。スライドレクチャーと学生とのセッションの二部構成で、出展者それぞれの「SD Review」に対する想い、建築家を志す学生からの問いがあり、3時間があっという間に経過しました。



9回目を迎え、さらに盛況に 愛知県私立中学校進学フェア



夏の恒例行事となった感のある「愛知県私立中学校進学フェア」は今年で9回目、本校を含む県内の私立中学校21校が参加し、7月26、27日の2日間、松坂屋南館で行われました。中学受験に対する世間の関心は引き続き高いものがあり、全体の入場者は2日間で延べ8593人（昨年比112%）と昨年を大幅に上回る盛況となりました。猛暑の中、各校の



管弦楽同好会の演奏

また、昨年から8階ホールの個別相談会とあわせて1階のオルガン広場で各校クラブのステージ発表が行われ、26日午後には本校の管弦楽同好会が出演、満員の聴衆を前に美しい演奏を披露しました。個別相談会とあわせて私立中学校を知っていただくよい機会になったのではないかと考えられます。毎年このことから、受験を控えた6年生ばかりでなく、5年生以下の児童と保護者の方の参加も多く、本校については進行中の中高完全一貫体制についての期待や質問が多く聞かれました。



星が丘の地域イベントに 高大の有志が参加

愛知淑徳学園として地域の方と交流することを目的に、7月19、20日、星が丘ボウル駐車場で行われた星が丘学区「盆踊り大会」に、本校高校生と大

学生有志が参加しました。多くの人でにぎわう会場に、色とりどりの浴衣を着た学生達が花を添えました。やぐらの上で高校生、その下で大学生が、婦人会の踊りをお手本に、地域の方々と一緒に踊りました。また、大学生は会場で子どもを対象に「立体バスル」を美術。「楽しい」「もつとやりた」という声が上ががり、企画した学生もやりがいがあったようです。地域のイベントへの参加の機会はなかなかありませんが、このお祭りの参加で、子どもや保護者など、さまざまな地域の方と出会い、触れ合うことができました。



理科旅行で 世界遺産の石見银山などを見学

中高の理科の伝統行事で、3年ごとに希望者を募って実施している「理科旅行」が、8月5～8日に行われました。今回は若狭から世界遺産の石見银山まで、生徒90人、引率教員9人、バス2台での見学旅行となりました。見学したのは、若狭大島半島のオリヒンサンド「天橋立」玄武洞、里山の環境を復元しながらコウノトリの野生復活に取り組む豊岡のコウノトリの郷



鳥取砂丘



早朝の宍道湖でジミ漁見学

公園、鳥取砂丘、歩くとキョツキョツと音のする鳴き砂で有名な浜井手ヶ浜、汽水域の生物を集めた水族館コレウス、石見银山、宍道湖のジミ漁、中海に浮かぶ玄武岩質の火山である大根島の溶岩洞窟など。生徒たちは、見学地点ごとに地図に両面テープで砂を貼り付けた「砂マップ」を作成。映像や写真だけでなく実際の景観やものに触れ、熱心に観察する姿が見られました。



修了生へ歌のプレゼントも



14人が巣立ち 留学生別科修了式

留学生別科修了式が、5月15日、国際交流会館（アイハウ

ス）で行われ、学長より14人の修了生に修了証書が授与されました。天津外国語学院からの交換留学生である鄭 曉艶（てい きょうえん）さんが修了生を代表してスピーチをし、留学期間のさまざまな経験を話してくれました。修了式後は修了パーティーが行われ、修了生は、留学生別科の先生方や在学生と記念撮影をしたり、歓談したり名残が尽きない様子でした。また、今年は来学期継続する留学生が、修了生のために作った歌を演奏するという楽しいサブライズもあり、例年以上に盛り上がり、大きい修了式となりました。



模擬授業 文学部教育学科(長久手キャンパス)



第2回 夏のオープンキャンパスに 3,315人が参加!

第2回夏のオープンキャンパスを7月26、27日の両日、長久手・星が丘両キャンパスで開催しました。高校生や保護者ら多数の来場があり、2日間で3,315人(付き添い者は除く)と大盛況でした。東海4県はもちろん、全国各地から多くの参加者を迎え、本学への関心の高さが伺えました。

当日は、全体説明会や模擬授業、学科(専攻)相談コーナー、キャンパスツアー等を行い、参加者は教員やスタッフの言葉に耳を傾けたり、初めて接する特殊な施設や機材に目を輝かせたりしていました。

中でも毎年、好評を博している模擬授業は本年度も多数の受講者が見られ、人気のある授業では立ち見が出るほどの盛況ぶり。各学科(専攻・コース)の模擬授業では、図工室での造形遊びや眼科の検査を体験する講義、国際ボランティアプログラムでの体験談を在学生が自ら発表する等、多彩な内容

で参加者の興味を引きました。また、全学部生が受講できる全学共通履修科目の言語活用科目やコンピュータ活用科目、会計科目、インターンシップ、ボランティアの模擬授業も実施。専門的な大学講義が実際に受講できる貴重な機会とあつて、参加者は真剣な眼差しで授業に参加していました。

その他にも、学科(専攻)相談や入試相談を始め、大学生活や奨学金についての学生生活相談、卒業後の就職先や進路についての就職相談、海外留学について個別相談ができる留学相談等の各種相談コーナーでは、充実した4年間を過ごすために、どのようにすればよいのかを熱心に聞く参加者の姿が多数見受けられました。

同時に、本学教員による公募制推薦入試(基礎学力重視型)の基礎学力試験対策講座を各キャンパスで開催。11月22、23日に実施する公募制推薦入試(基礎学力重視型)の基礎学力試験(国語・英語)について、模擬問題集やレジュメを使って細かな説明を行いました。本年度から実施方法が変更するとあつて、こちらにも多くの高校生が集まり、必死にメモを取る姿が印象的でした。



学科・専攻相談(星が丘キャンパス)

運動部が快挙! インターハイ、国体へ出場



中高陸上部 インターハイ、国体、全中、 ジュニアオリンピックに出場

高校陸上部は7月28日〜8月2日の5日間、埼玉県で行われた全国高校総合体育大会(インターハイ)に出場し、400Mで3年の水口小夜さんが2位、4×400Mリレーでは水口さんと2年の小林愛実さん、竹下晴子さん、福島優さんが2位の好成績を挙げました。400Mに出場した水口さんは、5月の愛知県大会、6月の東海大会でも優勝、4×400Mリレーは東海大会で大会新記録を樹立し優勝、インターハイに臨みました。



水口さんは10月に大分県で行われた国体にも出場し、6位入賞を果たしました。インターハイでは皆、緊張した様子でしたが、多くの方々のサポートや

応援で心を一つにすることができ、結果自分たちの走りができたようです。リレーメンバーの3人は2年生ですので、来年の活躍も十分期待できます。

また、中学陸上部では1年の北野有紀さんが8月に行われた全日本中学校陸上競技選手権に出場。10月下旬にはジュニアオリンピックにも出場しました。北野さんは今年4月に入学したばかりで、今後の活躍が期待されます。

ソフトテニス部が日頃の練習を実らせ、インターハイと国体、全日本ソフトテニス選手権に出場。2人の部員が感想を綴ってくれました。

●平成20年度全国高等学校総合体育大会 インターハイ(7月29、30日 埼玉県川口市)

3年の村松香純さん、西牧美穂さん、安部帆南美さん、大津江里奈さん、毎田のどかさん、野末有紀さん、2年の水野早紀さん、高橋由さんの8人が出場。最高で4回戦敗退。

「高校最後の夏を悔いのないものにするため、毎日ボールを追っていました。3回戦で敗退したのはとても悔しかったです。最後までヘアを信じて笑顔で戦うことができたのでよかったです」(毎田さん)。

●第63回国民体育大会「チャレンジ!! おおいだ国体」(9月27日〜10月7日)

村松さん、西牧さん、安部さん、大津さんが出場。結果はベスト16。

ソフトテニス部 インターハイと 国体に出場



「淑徳生4人、ほかの3校から6人の計10人で1か月半、練習、遠征と頑張りました。試合は6人しか出られませんが、4人のサポートと応援が心強く、魅力ある仲間とチーム一丸となつて戦えたことに感謝しています」(村松さん)。

村松さん、西牧さんは青森県で行われた全日本ソフトテニス選手権にも出場しました。ソフトテニス部の今後の活躍に期待しています。

はじ 檀規代美さん、 なぎなたで国体出場



現代社会学部3年の檀規代美さんが、9月27日から10月7日大分県で開催された第63回国民体育大会のなぎなた(成人女子部)の愛知県代表として出場しました。

高校1年生からなぎなたを始めた檀さんは、大学入学後、週4日の大変な練習量をこなす、今夏の国体県選考会で3位となり、見事、初の国体代表に選出されました。

「まだまだ技術的にも未熟。これからますます練習を積んで鍛錬しなければ」と決して妥協することのない檀さん。ますますの活躍が期待されます。



活動発表会



末吉竹二郎氏



エコ活動の取り組みを報告 「エコメッセ in 愛知淑徳大学」

2010年、名古屋市での開催が決まったCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)に向け、この夏開催された朝日新聞主催の「環境7大学 集中公開講座2008」に本学も参加。7月12日に末吉竹二郎氏

が講師として「エコメッセ in 愛知淑徳大学」を開催した。この機会に、学生から自分たちの日頃の取り組みについて報告会を開催したいとの声が上がった。同日、「エコメッセ in 愛知淑徳大学」学生からの緊急提案「私たちができるエココンテスト」を開催。大学祭実行委員会のメンバーやボランティアサークル、また学外の方と連携して活動している学生や企業と協働で活動している学生など15チームがポスターセッションやワークショップを行いました。環境をテーマにした卒業論文の展示や沖繩のさんご礁の現状を報告した映像紹介などもありました。

当日は500人を超える来場者があり、末吉氏からも各チームに対して丁寧な講評をいただきました。来場された方々からは、「学生のパワーを感じていく地域に向けて発信して行くことは良いことだ」との評価を頂く一方、「イベントで終わって欲しくない」との期待をこめたご意見もありました。また学生にとっては、環境問題への社会的関心の高さを知らせたい、この先も自分たちの活動を継続していく決意を新たにしたいという声も聞かれました。



ポスターセッション

7月26日～8月5日、長久手キャンパス8号棟5階において「ギャラリー・間巡回展 小嶋一浩×赤松佳珠子/CAT展 CULtivate」が開催されました。この展覧会は、現代社会学部都市環境デザインコースの学生が実務しながら会場計画、施工、運営を行うという全国的にもユニークな授業を経て完成。CATOの運営で建築とインテリアデザインとの企画展を行う「ギャラリー・間(東京)」と本学都市環境デザインコースが共催する、年に一度の一大イベントです。

期間中は「カルティベートII 耕すように建築する」をキーワードに、3つの広大なプロジェクト、「中央アジア大学ナリンキャンパス」プロジェクト「MURAYAMA」ホーチミンシティ大学」を展示。展示品はただ設置されたのではなく、これらの作品群にふさわしい展示空間は何か、検討に検討を重ねて制作されました。

学生たちは、これら構想段階のプロジェクトだけでなく、過去にCATが実現した建築などを文献や現地見学から読解し、設計の手がかりを探ることで独自の形や構成を試みました。緩やかに弧を描く曲面の壁と、そこに開けられた幾つかの開口。壁面をなぞり歩き、切取られた風景に足をとめ、また導かれる。

CATが、気候も文化も異なる地で、風光など環境の快適さを実験し、人々の活き活きとしたアクティビティを、建築のみならずランドスケープや家具を含め総合的に誘発しようとするのに学び、学生たちもまたこの会場で起こる一連の出来事のしなやかさを体験しました。

この愛知巡回展は、新たな学生たちと共に来年度いよいよ十周年を迎えます。



田植え体験に取り組むA班



ミニ登山に出かけるB班



ミニ登山、田植えを体験 中2林間研修

5月のゴールデンウィーク明けに実施している中2の林間研修は、長年、本校の宿泊施設「淑友館」(2泊)で実施してきましたが、昨年より1泊目を高山市一宮町の民宿にお世話になっていました。都会での便利な日常生活を離れて農村に慣れ、自然に囲まれてたくさん体験をさせていただきました。A班は5月12・14日、B班は13・15日の2グループに分かれて実施。

1日目は道の駅「モンデウス」前での入村式のあと早速、位山へミニ登山。雲一つない上、天気も空気もおいしく、美しいアルプスの山並みが見え、眺望できました。その後、それぞれの民宿に分かれて、五平餅、うどん作りなどの食体験、夕食

2日目午後には淑友館に移動し、夜はファイヤーなどでクラスの友人たちとコミュニケーションを深め、3日目に高山見学をしたあと、帰路につきました。

後には懐中電灯持参でナイトハイク。2日目午前中は田植え体験。はじめは泥田の中に不安な面持ちで入った生徒たちも次第に夢中になり、用意された田んぼにしつかりと苗の植え付けをしてきました。秋には収穫したお米を学校に送っていただき、家庭科の調理実習に使う予定です。たった1泊の体験でしたが、普段の生活では得られない貴重な体験ができたようです。

2日目は懐中電灯持参でナイトハイク。2日目午前中は田植え体験。はじめは泥田の中に不安な面持ちで入った生徒たちも次第に夢中になり、用意された田んぼにしつかりと苗の植え付けをしてきました。秋には収穫したお米を学校に送っていただき、家庭科の調理実習に使う予定です。たった1泊の体験でしたが、普段の生活では得られない貴重な体験ができたようです。





韓国から20人が参加 日本語研修プログラム 2008

今年も、本学の留学生別科主催の「日本語研修プログラム」に、国際交流提携校である東亜大学より20名の韓国学生が参加しました。

約4週間の短期プログラム（6月30日～7月25日）で、前中はレベル別の少人数制クラスで日本語を学び、午後は陶芸・書道・華道を体験しました。研修最初の週末には交流会が開かれ、学部在学生ボランティアが50名以上集まり、自己紹

介やゲームを通し、留学生と知り合う良い機会となったようです。

交流会後は共に名古屋市観光に出かけ楽しい時を過ごしました。1泊2日のフィールドトリップでは、大阪のユニバーサルスタジオ・ジャパンや京都の金閣寺、清水寺を訪れ、日本文化の一端を味わいました。

授業や日本人学生との交流を通して、新たな発見をし、楽しい思い出を持ち帰ってもら

えたことと思います。



ユニバーサル・スタジオ・
ジャパンのゲート前で



交流会。今回も留学生と友達になりたいと、
たくさんの学生が集まった